

第三章活用事例

小学校五・六年生版「心たくましく」 p.130
「家族のために進んで役に立つ」 p.131

中心資料

「母思いの発明家——豊田佐吉——」 p.48
「小学校五・六年生版「心たくましく」」 p.55

【主題名】 家族を思ふ心

第五学年及び第六学年 4・6

「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つこと」
「children」。

【ねらい】 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役
「ついでに」の心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》五・六年生の時期の児童は、家庭での自分の役割を自覚し、家族のために積極的に役に立つことができるようになることが求められます。家族が相互に信頼と深いきずなで結ばれていることについて考えを深めさせることが大切です。



「自分のために家族がしてくれていることには、どのようなことかがあるでしょうか。」

○自分のために家族がしてくれていることにはどのようなことかがあるかを思い出させ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをしましょう。

○教師が「母思いの発明家」を読み聞かせましょう。



「佐吉は、どのような気持ちから『よし、ぼくも新しいはた織機を作ろう』と思ったのでしょうか。」

○母に樂をさせてやりたいという一念から発明を志した佐吉の思いを捉えさせましょう。



『考え直しておくれ。』と母に泣きながら言われた時、佐吉はどのようなことを考えたのでしょうか。」

中心発問

○発明をあきらめたほうがいいのかと揺れる気持ちについても、いいねいに捉えさせるようにしましょう。

《評価》 家族の幸せを思い、はた織機の発明に打ち込む佐吉の姿を通して、家族の幸せのために役に立つとする心情をもつことができたか。



「母から『ありがとう、佐吉。』と言われた時、佐吉はどのような気持ちだったのでしょうか。」

○佐吉が家族の役に立った時の気持ちについて話し合わせ、その喜びに共感させましょう。



「家族のためにどのようなことをしていますか。また、どのようなことができますか。」

○「心たくましく」 p.130
「家族のために進んで役に立つ」 p.131
記入させ、発表させましょう。

○教師自身が、家族のために進んで役に立った経験を語りましょう。

【資料の特徴】 中心資料の「母思いの発明家——豊田佐吉——」は、母のはた織りの仕事を楽にできないかと考え、何度も失敗を繰り返しながらはた織機を発明した豊田佐吉の姿を描いた資料です。「家族のために進んで役に立つ」は、家族との絆や、家族がかげがえのないものであることをあらためて考え、見直すことができるページです。家族のためになることや家族が喜びることについて考えて家族に伝え、それに対して家族からメッセージを書いてもらう欄があります。

板書例

自分のために家族がしてくれていることには、どのようなことかがあるでしょうか。

- 食事の準備をしてくれる。
- 病気のとき看病してくれる。
- 服や日用品などを買ってくれる。

母思いの発明家——豊田佐吉——

佐吉は、どのような気持ちから「よし、ぼくも新しいはた織機を作ろう」と思ったのでしょうか。

- 発明をしたら、きっとお母さんが喜んでくれる。
- 夜遅くまで働いているお母さんを楽にしてあげたい。
- 自分のために毎日一生けん命働いてくれているお母さんに、恩返しをしよう。

「考え直しておくれ。」と母に泣きながら言われた時、佐吉はどのようなことを考えたのでしょうか。

手紙を読む佐吉の挿絵

- お母さんを悲しませるくらいなら、発明なんてやめてしまったほうがいいのかもしいれない。
- こんなに心配をしてくれて、ありがとう。でも、お母さんのために最後までがんばるよ。
- 発明が成功すれば、きっとお母さんも分かってくれる。だから、あきらめずに続けよう。

母から「ありがとう、佐吉。」と言われた時、佐吉はどのような気持ちだったのでしょうか。

- お母さんに喜んでもらえてよかった。
- 発明が成功したのは、お父さんやお母さんのおかげだ。
- これからも家族を大切にしよう。
- お母さんの役に立つことができ、本当にうれしい。

家族のためにどのようなことをしていますか。また、どのようなことができますか。

- 母に少しのんびりした時間を過ごしてもらうために、毎日、晩ごはんのあとの食器洗いをしている。
- ケンカをしても、次の日の朝には必ずしっかりと「おはよう」と言い合って、気持ちを切りかえている。
- 毎日元気に過ごすことや、一緒に楽しい時間を過ごすことを、大切にしていきたい。

《評価》 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことのできる心情を育てることができたか。